

摘果剤の上手な使用方法

リンゴの摘果剤は、現在「マイクロデナポン水和剤85」が使用できます（表1）。この薬剤には、散布後の気温が高いほど効果が高くなるという特徴があります。また、散布のタイミングは品種によって異なるので、事前に目通りの高さの中心果の横径を測定し、表2の基準に達した時に散布しましょう。

表1 ミクロデナポン水和剤85の使用基準

使用目的	摘果
希釈倍率	1,200倍
使用時期	満開後2～3週間頃
散布量	10aあたり350～400リットル
展着剤	加用

表2 品種別の中心果横径による基準

ふじ	7mm
千秋	7mm
王林	12mm
ジョナゴールド	17mm
目通りの高さの中心果が横径が、樹全体の30%以上に達したとき散布する	



中心果の横径を測定して散布日を決定します。

～散布のコツ～

◎ 過剰落果に注意！！

摘果剤の効果は品種によって差があります。‘つがる’は過剰落果するので散布を避けましょう。また、樹勢の強い若木や結実初期の高接ぎ樹も、過剰落果のおそれがありますので散布を行わないようにしましょう。

◎散布は午前中に

朝方と夕方の散布では朝方の散布の方が効果が高いようです。
一日の最高気温になる前の午前中に散布を行うようにしましょう

◎気温の高い日に散布を！

摘果剤は気温が高いほど効果が出やすくなります。
中心果の横径が基準に達しても、気温が低い場合は2～3日後の天気予報を確認し、
気温の高い日をねらって散布しましょう。

◎濃度よりも散布量

摘果剤の効果は、薬剤の濃度よりも散布量が大きく影響します。
‘ふじ’などの効果が出にくい品種では、散布直後に薬液が葉からしたたるくらいまで、
たっぷり散布しましょう。

◎散布園の摘果は摘果剤の効果が現れてから

摘果剤の効果は散布後10～14日で現れます。
それまでは摘果剤を散布していない品種や園地の摘果を進め、摘果剤の効果が出てから仕上げ摘果を行うようにしましょう。



摘果剤の効果（側果の成長が止まり
中心果だけが肥大しています）

◎その他の品種への散布について

‘シナノスイート’、‘シナノゴールド’は摘果剤の効果が出にくい品種です。散布する場合は満開後2週間頃、‘ふじ’と同時期に散布します（長野県）。‘トキ’や‘やたか’などの早生ふじ系統は満開後2週間頃、‘ふじ’と同時期の散布で、摘果効果が期待できます（青森県）。